岡山県日中教育交流協議会会報

# 悠久

第62号　September　2023

本号の内容


| | | |
|---|---|---|
| ①中国との交流の必要性、我が国の経済界での海外交流の重要性 | 美作市教育委員<br>株式会社　英田エンジニアリング　代表取締役 | 万殿貴志 |
| ②岡山後楽館高校と洛陽市の交流～これまでの歩みとこれからの未来～ | 岡山市立岡山後楽館高等学校　校長 | 矢吹玲子 |
| ③奈良時代から令和の時代へと～時を超えた日中交流～ | 矢掛町立三谷小学校　校長 | 佐野和貴子 |
| ④上海訪問レポート | 岡山県日中教育交流協議会　理事 | 松井三平 |

上海恵敏学校　正面玄関

## 中国との交流の必要性、我が国の経済界での海外交流の重要性

美作市教育委員
株式会社　英田エンジニアリング代表取締役
万殿貴志

我が社は、一九九八年十月に中国天津市に独資で英田精密機械（天津）有限公司を設立し、成形機、造管機、各種金型製作、コイン駐車場機器のフラップユニットの生産を開始し、日本の輸出を始めました。その後二〇〇二年六月に中国上海市に英田複合管製品（上海）有限公司を設立し、園芸用の支柱の生産を開始し、両工場から日本に輸出していましたが、天津の気候、交通インフラ等の条件が悪く、上海工場に統合しました。

その後は、中国の工場で生産した成形機、造管機のユニットや駐車場のフラップユニット等を輸入して国内で調整、試運転を行い国内や海外に販売し、中国人の緻密な労働力と日本のハイテク技術を合体させた、より良い製品作りシステムを構築しております。

現在では、中国、台湾、韓国等のアジアの国々の企業と協力して高品質で低価格のモノづくりを行っており、今後ベトナムへの進出も検討しております。

海外と連携してモノづくりを行う、また海外に製品を販売するためには、社内にグローバル人材が必要になります。そこで当社は、日本人のグローバル人材教育を進めると共に、中国人、ベトナム人、マレーシア人、スリランカ人等の海外の人材を雇用しています。こうした外国人社員は、すべて日本の大学や短大を卒業しており、日本人と全く同じ待遇で雇用しています。日本人社員が外国人と一緒に日々仕事をすることで文化、習慣、考え方等の違いを肌で感じ、信頼し合い、本当の意味でのグローバル人材の育成を行うことが出来ます。中国については生産国としてだけではなく、日本の隣国として、お互いに信頼と尊敬の念をもって、今後益々交流を密にしていかなくてはならないと思ってます。

日本人、外国人を問わず当社の社員が坐禅、心学塾、フィロソフィ勉強会、アメーバ経営勉強会で学びを深め、全ての人を大切にする経営のできる、素晴らしい人材に育成することで、「常にちょっと進んだモノづくり」が出来る、世界に通用する人材を育成し、今後、益々発展していきたいと考えております。

二〇二三年八月二十日

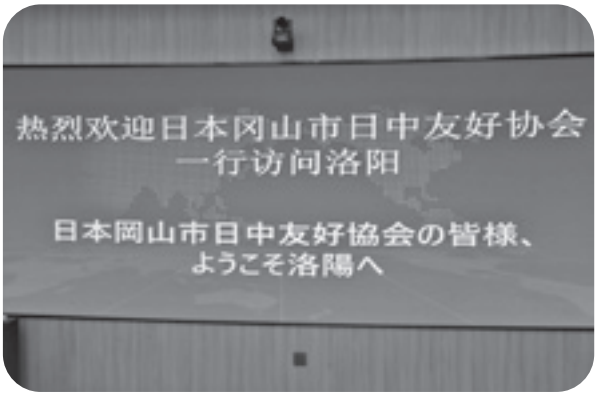
# 岡山後楽館高校と洛陽市の交流

## ～これまでの歩みとこれからの未来～

岡山市立岡山後楽館高等学校
校長　矢吹玲子

### 【洛陽との繋がり】

岡山後楽館高等学校は、岡山市立の唯一の高等学校として、創立以来岡山市の友好交流都市である中国河南省洛陽市と、深く絆を紡いできました。本校が誕生した翌年の二〇〇〇年十一月、初代校長宇佐見一郎氏と、洛陽外国語学校校長との間で、友好提携に関する協定が交わされ、その中で両校は「平和、友好の精神に則り、互いに国際的視野を持った有為な青年の育成を目指して教育活動を展開するために、友好関係を樹立する」と申し合わせました。



洛陽市人民政府外事弁公室では、温かい歓迎をいただきました。

### 【中国語教師招聘】

この協定に基づいて、その後毎年、洛陽から一年の任期で中国語の教師（ALT）を岡山後楽館高校に招聘してきました。総合学科である本校では、外国語として「英語」に加えて「中国語」と「韓国語」の科目が開設されています。中国語を履修した生徒たちは、洛陽から来日した教師から発せられる生き生きとした中国語とその背景にある文化や生活習慣など、中国の息吹そのものを感じながら学習してきました。洛陽からの教師招聘については、岡山市日中友好協会専務理事の松井三平氏及び洛陽市人民対外友好協会の皆様に大変なお骨折りをいただきましたことに改めて感謝申し上げます。

### 【新たな友好交流の形】

コロナ禍で中国からの来日が制限されたため、教師招聘事業は中断しましたが、出入国の規制が緩和されたのを機に、改めて岡山後楽館と洛陽市との友好関係を深め、国際理解教育を一層推進することを目的として、新しい国際交流事業を始めることにしました。

新たな交流の形として特に大切にしたい点は、一人でも多くの生徒が国際交流に参加できる環境を創ること、生徒自身が直接中国の文化や価値観に触れる体験の機会を増やすこと、そして、生徒が同年代の中国の若者たちとの友情を育むことができることです。そのため、洛陽における友好交流のパートナーとしての学校を探すことから始めました。そして二〇二三年七月に、岡山後楽館高校校長として洛陽市を訪問し、洛陽市第三高級中学、洛陽理工学院附属高級中学の二校と、友好交流校としての絆を結ぶ「覚書」を交わすことができました。この度も、前述の岡

洛陽理工学院附属高級中学
張延奇書記（右側）との調印

山市及び洛陽市のそれぞれの友好協会のご尽力で、素晴らしい二校の高校をご紹介いただきました。

## 【洛陽市訪問】

今回の洛陽訪問では、友好交流校の協定を結ぶことができただけでなく、これまで四十数年間にわたる岡山市と洛陽市の友好交流に深くかかわってこられた方々や、かつて後楽館で中国語の教師として勤務された方々、派遣教師の選考や手配に長年尽力くださった方々など、岡山市及び後楽館との縁の深い方々がとても温かく迎えてくださりました。私にとっては初めて訪れた洛陽の地でしたが、長い年月をかけて育まれた友情の一端に触れることができたような気がしました。

洛陽市第三高級中学 李仲冬校長（左側）との調印

現在は美しい超高層ビル群や広く整備された高架道路網が訪問者を圧倒するほどの大都会となった洛陽ですが、その一方、五千年の歴史を誇る悠久の古都でもあり、世界遺産の龍門石窟、仏教が伝来し初めて建立された白馬寺、三国時代の蜀の武将関羽を祭る関林廟など、想像を絶するほどの大きく深い文明の歴史を体感することができました。今後、岡山後楽館の生徒たちがここで何を感じ、何を学んでくれるかが楽しみです。

## 【国際理解教育の目指すところ】

国際理解を促進するための教育は、岡山後楽館の特色の一つです。異なる国で生まれ、育ち、教育を受け、そして生活している人々は、例えば同じものを見た時の感じ方、同じ場面における振る舞い方が違ってくるものです。国際交流というのは、実際にその国の人々に会ったりその国を訪れたりして、それらの「違い」を自分自身が体験できる貴重な機会です。他の国や文化を背景に持っている人々と、気持ちを通わせ、協働し、共生していくためには、それまで意識すらしなかった身の回りの「当たり前」を当たり前ではないのだと自覚し、同時に相手の「当たり前」を理解することが、その第一歩になるのです。

私自身、今回洛陽を訪問したわずか数日間にも、数えきれないほどの驚きと、違和感と、感銘を受ける場面に遭遇し、そこから、無意識だった日本人の姿を思い知らされました。

龍門石窟にて（世界遺産）
案内は常丹丹さん（右側）（元後楽館高校招聘中国語教師）

しかし、国際交流の意義は、文化や価値観の違いに気付くことだけではありません。まったく言葉の通じない国で出会う人々が、自分たちと同じように喜び、同じように相手への思いやりを持ち、同じように家族を愛し、同じように平和と友好を望んでいるという、共通点を知ったり共感を覚えたりした時ほど、大きく感動した瞬間はありませんでした。

本校の生徒は今後、手紙やメール、オンライン又は訪問という形で洛陽にいる友人たちとつながり続けるでしょう。そして彼らが、共に成長し力を合わせて平和な未来の世界を担ってくれることを願っています。

元 洛陽市長 劉典立 氏と
（洛陽市人民対外友好協会名誉会長）（左側）

# 奈良時代から令和の時代へと
## ～時を超えた日中交流～

矢掛町立三谷小学校
校長　佐野和貴子

### 【はじめに】

江戸時代に宿場町として栄えた小田郡矢掛町の東部に位置する、矢掛町立三谷小学校は、全校八十二名の小規模校です。学校・家庭・地域と連携して、「豊かな心をもち、たくましく生きる児童の育成」をめざしています。また、矢掛町全体では、「ふる里やかげを愛し、ふる里やかげで活躍するたくましい子ども」の育成をめざしており、町内七校が一堂に会する合同授業（三年生以上）にも取り組んでいます。

本校では、毎年、総合的な学習の時間に、六年生が学区内の歴史探訪を行っています。吉備真備公にゆかりのある「圀勝寺（こくしょうじ）」から始まり、吉備保光会の方にお世話になりながら「吉備真備公園」を訪れ、学習しています。

昨年度から、日中教育交流のお話をいただいておりましたが、コロナ禍ということもありなかなか実現しませんでした。今年度に入り、やっと実現したことに、安堵の気持ちと、ここに至るまでにご尽力いただいた方々への感謝の気持ちとで、胸がいっぱいになりました。この場をお借りいたしまして、厚く御礼申し上げます。

### 【オンライン交流会プログラム】

日時　令和五年五月三十日（火）
十四時三十分～十五時三十分

(1)日中双方出席者紹介
(2)挨拶（矢掛町教育委員会教育長・三谷小学校校長・西安師範附属小学校長）
(3)日中双方による学校紹介・発表
①西安師範附属小学代表児童による学校紹介（質疑応答）
②三谷小学校五年生児童による学校紹介（質疑応答）
③三谷小学校六年生児童による吉備真備公についての発表（質疑応答）

④三谷小学校五・六年生児童全員によるソーラン節（踊り）披露（質疑応答）
⑤児童代表挨拶（西安師範附属小学・三谷小学校）
⑥記念写真撮影

### 【児童の様子】

三谷小学校からは、学校代表として、五年生十四名と六年生十一名が参加しました。互いの学校紹介をした際、本校児童は西安師範附属小学の立派さに圧倒され、感嘆の声を上げていました。また、代表で学校紹介をした六年生児童の堂々とした発表ぶりにも驚いていました。画面を通してではありますが、よい刺激となったようです。

また、中国という国は知っているけれど、詳しい説明を聞く機会はなかったので、特に「兵馬俑（へいばよう）」について子どもたちは興味津々でした。後に、教育長より、矢掛町役場に展示してあることを教えていただき、改めて、中国と矢掛町との結びつきを実感することとなりました。吉備真備公のおかげで、このような交流をすることができることに感謝するとともに、吉備真備公の偉大さをひしひしと感じ、これからもより一層学んだことを伝えていかねばならないという使命感も感じることとなりました。

## 【三谷小から西安師範附属小学へのお礼の手紙より】

●緊張したけど、学校のことを教えてくれたり僕たちの踊りを見てくれたりして嬉しかったです。中国のことが好きになりました。また、オンライン交流会をしたいです。楽しみにしています。

●僕はこの交流で、中国に行ってみたいと思いました。理由は歴史的建造物がたくさんあるからです。中国に行って写真などを撮りたいです。

●今回の交流会で、私は中国に強い関心をもちました。日本は中国に影響されていますが、中国が日本に影響されたことは何ですか。また、教えてください。今回の交流会で中国に行きたくなりました。謝謝。

●みなさんの発表で、中国のことがよくわかりました。特に「兵馬俑」が心に残りました。西安市の兵馬俑を見に行きたいと思いました。

●僕が心に残ったことは、兵馬俑の顔は一人一人違うことです。西安のみなさんも、ぜひ、矢掛町に来てください。

●僕は特に兵馬俑に興味を持ちました。あの人形の細かい作りに心を揺さぶられました。そして、あの大きな学校を見ると、思わず中国に行きたくなってしまいました。謝謝大家。

## 【おわりに】

三谷小学校が吉備真備公にゆかりのある地区にあるため、今回このような機会をいただくことができました。自分たちの地域の誇りである吉備真備公を学ぶことで、中国ともつながることができ、子どもたちも大変よい経験ができました。また、このことも学習発表会などで、伝えていきたいと思います。

今回、この交流が、西安のみなさまや中国大阪総領事館をはじめ多くの方々のご尽力により実現いたしましたことに対しまして、心より御礼申し上げます。

# 上海訪問レポート

岡山県日中教育交流協議会
理事　松井三平

三月二十九日～四月一日まで岡山県日中教育交流協議会（以下、協議会）の派遣により上海を訪問した。今回の主な訪問目的は、三年間の新型コロナ感染の影響によりリアル交流が困難な中、オンライン交流で実績を上げてきた上海市との教育交流について、交流窓口となっている上海市人民対外友好協会（以下、上海友協）と意見交換をし、その上で交流校を訪問し今後の交流方法や課題などについて協議することであった。

着任早々の上海市人民政府外事弁公室の孔福安主任（右）と会見

## ■上海と岡山との交流経緯

岡山と上海との交流は、岡山市日中友好協会が内山完造先生生誕百周年記念事業として上海友協と共同して上海国際墓地にある内山先生の墓地に墓碑を建立した一九八五年にさかのぼる。

爾来、両市は四十年近く福祉、文化、経済など多方面にわたる市民交流を展開してきた。とりわけ、社会福祉法人旭川荘が障害者や福祉関係者で構成する「福祉の翼訪中団」を二十年にわたり実施したり、福祉従事者の研修を受け入れたりするなど福祉分野での交流は特筆に値する。

## ■協議会の発足と教育交流の展開

教育交流については、岡山上海便が開通した当時、旭川荘の江草安彦理事長（故人）が、岡山上海便を利用した青少年の交流を教育関係者に働きかけたのが契機となった。

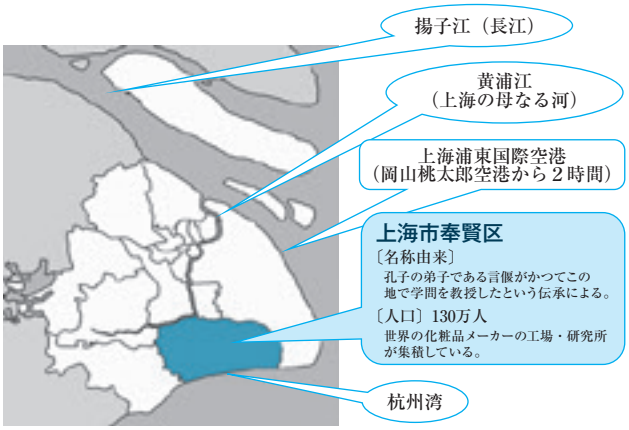
その後一九九九年に当協議会が発足し、二〇〇一年には初代会長の森崎岩之助先生（故人）等が上海へ赴き、上海友協との間で教育交流協定を締結した。早速、小学校や高校、教職員の相互訪問が始まったが、二〇〇五年より「STUDENT EXCHANAGE in上海」と銘打った相互交流プログラムにより、日中高校生交流が始まった。この事業はコロナ感染拡大前の二〇一九年までに十四回実施し、日中青少年同士の相互理解と友好増進に寄与してきた。

二〇二〇年二月から新型コロナウイルス感染パンデミックが始まり、リアルな交流ができなくなった時、すぐに上海友協と連絡し、オンラインでの教育交流を計画し即実行した。当初こそ日中間で異なる会議システムの問題やネット環境の不安定など、接続に試行錯誤が続いたが、次第にスムースに接続ができるようになり、音声など、交流環境も良くなってきた。

## ■交流校訪問

本年三月三十一日、上海市友協の郭盛麟調研員の出迎えを頂き、車で上海市から西南方向に位置する奉賢区へ向かった。高速道路を経て約一時間で奉賢区役所に到着し、国際交流担当の方と合流し、最初の訪問校である思言小学へ向かった。

≪上海市奉賢区の概略地図≫



## ★奉賢区思言小学（論語教育）

二十九クラス、児童千二百六十一名、教職員八十四名という規模。一昨年、私立就実小学校と論語教育をテーマに交流した。孔子の弟子である言堰（言子）が校名の由来となっている。党支部の王士勇書記と施建英副校長が出迎え案内いただいた。論語の素読をする専門の教室や暗唱用の電子ボックス等があり、論語教育の徹底ぶりがうかがえた。

書道部活動

図書の貸し出しも電子化
この設備はどこの学校にもあった

## ★恵敏学校（支援学校）

日本の特別支援学校に相当する。十四クラスで生徒数百二十七名、教職員は八十四名。県立東備支援学校と三年間にわたり交流を継続している。いつも笑顔で接していただいた戴燕校長と陳暁華党書記のご案内の下、校内を見学した。隅々に生徒がリラックスできるように工夫がなされ、お茶を飲んだり本を読んだりできるフリースペースがあった。

中庭に言子像

論語「三字文」素読室

だれでも自由に使える
フリースペース

## ★致遠高級中学（有名高校）

生徒数三十五クラス、千六百五十名。専任教師は百二十名。楊文英党書記と石紅霞副校長の出迎えをいただき、校内を見学、化学実験室やデザイン政策室などを見て回り、最後に懇談会に臨んだ。この高校は岡山県立林野高校と三年間交流を継続している。楊先生の話によると来年秋に、設備も整った広大な新校舎に移転するのだという。

正面校舎前で記念撮影
正面左から二番目が上海友協の郭盛麟調研員、
三番目が戴燕校長

遠方からくる生徒のための
寄宿舎

学校のマスコット、
恵恵と敏敏も笑顔で
出迎えてくれた

向かって左から二番目が楊書記

学校紹介と国際交流への意気込み
を熱弁する楊文英書記（中央）と
石紅霞副校長（左側）

生徒手作りの切り絵と
東備支援学校制作の
備前焼きの交換

bene（よく）＋ esse（生きる）
Benesse＝「よく生きる」

Benesse
株式会社ベネッセホールディングス
〒700-0807 岡山県岡山市北区南方3-7-17
https://www.benesse-hd.co.jp/

学校法人　加計学園

**岡山理科大学附属高等学校　通信制課程**

**海外に居ながら日本の高等学校を卒業。**
**日本の大学で学び、世界で活躍する人になる。**

R2 Hybrid School by Rideffy

〒700-0005　岡山市北区理大町1-1
Phone：086-256-8562　／　Fax：086-256-8563
Web：https://www.r2hs.jp
Mail：otoiawase@r2hs.jp

## 岡山県日中教育交流協議会とは、

1　学校、団体、個人を会員とする民間団体です。

2　会費は、年会費（４月～翌年３月）です。
　　団体（教育委員会・学校園）・・3,000円、個人・・2,000円

3　主な活動内容は、
　(1)　中国との教育交流（リモート交流での技術面のサポートも含みます。）
　(2)　交流校の紹介、講師の派遣、各種資料の提供、教育事情調査団派遣等
　(3)　会報「悠久」の発行（県内小中学校、高等学校、教育委員会へ無料配布）
　(4)　日中青少年交流事業－STUDENT EXCHANGE 事業－
　(5)　交流活動発表会開催や教育交流実態調査等

**岡山県教育交流協議会は、会費と助成金、補助金で活動しています。この機会に、是非ご入会ください。**


**岡山県日中教育交流協議会　会報『悠久』第62号**
発行：令和５年９月／発行者：岡山県日中教育交流協議会　編集委員会
〒700−0902　岡山市北区錦町5−15 南田辺ビル2階　TEL（086）225−5083／FAX（086）225−5041

表紙題字『悠久』森崎岩之助 揮毫

印刷所：旭総合印刷株式会社